

平成 27 年度第 1 回 田村駅周辺整備基本構想策定懇話会 要点録																					
会議の名称	第 1 回田村駅周辺整備基本構想策定懇話会																				
開催日時	平成 27 年 11 月 2 日（月）午前 10 時 30 分～11 時 50 分																				
委員出席者 <table> <tr> <td>仁連 孝昭</td><td>公益社団法人 滋賀県環境保全協会 会長</td></tr> <tr> <td>井 恒昭</td><td>社会福祉法人石龍会 理事長</td></tr> <tr> <td>川北 広</td><td>田村自治会 自治会長</td></tr> <tr> <td>川崎 他家廣</td><td>長浜地方卸売市場株式会社 代表取締役社長</td></tr> <tr> <td>西田 英一郎</td><td>田村町まちづくり委員会 委員長</td></tr> <tr> <td>松居 繁隆</td><td>長浜・米原まんなか夢のまちづくり会議</td></tr> <tr> <td>松本 博文</td><td>滋賀県文教短期大学 理事長</td></tr> <tr> <td>若林 浩文</td><td>長浜バイオ大学 理事長</td></tr> <tr> <td>三浦 良勝</td><td>長浜土木事務所 所長</td></tr> </table> 委員欠席者 <table> <tr> <td>畑下 嘉之</td><td>社会福祉法人青祥会 理事長</td></tr> </table> （ 敬称略 ）		仁連 孝昭	公益社団法人 滋賀県環境保全協会 会長	井 恒昭	社会福祉法人石龍会 理事長	川北 広	田村自治会 自治会長	川崎 他家廣	長浜地方卸売市場株式会社 代表取締役社長	西田 英一郎	田村町まちづくり委員会 委員長	松居 繁隆	長浜・米原まんなか夢のまちづくり会議	松本 博文	滋賀県文教短期大学 理事長	若林 浩文	長浜バイオ大学 理事長	三浦 良勝	長浜土木事務所 所長	畑下 嘉之	社会福祉法人青祥会 理事長
仁連 孝昭	公益社団法人 滋賀県環境保全協会 会長																				
井 恒昭	社会福祉法人石龍会 理事長																				
川北 広	田村自治会 自治会長																				
川崎 他家廣	長浜地方卸売市場株式会社 代表取締役社長																				
西田 英一郎	田村町まちづくり委員会 委員長																				
松居 繁隆	長浜・米原まんなか夢のまちづくり会議																				
松本 博文	滋賀県文教短期大学 理事長																				
若林 浩文	長浜バイオ大学 理事長																				
三浦 良勝	長浜土木事務所 所長																				
畑下 嘉之	社会福祉法人青祥会 理事長																				
事務局（長浜市） 今井都市建設部長 中川理事兼都市計画課長 都市計画課：山口副参事 隼瀬主幹 田中主事																					
会議概要 - あいさつ 長浜市 大塚副市長 - 参加者紹介 各委員自己紹介 - 座長選出 仁連委員を座長として選出 - 会議の公開について 会議を公開とすることについて決定 - 議事 ① 田村駅周辺整備基本構想策定の目的について 資料に基づいて説明 ② 田村駅周辺の位置付けと基本構想の方向について 資料に基づいて説明 ③ 主な質疑、意見等 ・田村駅を核としたまちづくりが重要。田村駅の改築についてのプランや J R との協議等の市の取組状況はどうなっているか。 → J R との交渉はまだ行っていない。今回策定する構想に駅の改築等の内容を盛り込んで要望していきたいと考えている。 ・長浜市人口ビジョンでは、2060 年に人口 10 万人を確保する計画であるが、合併以降、長浜市は毎年 1 千人の人口が減少している。子育て世代の 30 代・40 代の流出をいかに止めるかが今後の課題である。 ・教育では、滋賀県における中学 3 年生対象の学力テストでは、全国 47 都道府県中 40 番、スポーツでは 40 番以下という結果が新聞に掲載されていた。田村駅周辺にはバイオ大学・文教短大が立地し、市のマスタープランでは文教地域に位置付けられており、例えば小学校・中学校・高校等の私立学校の誘致や、ホール等の施設の建設など、人口流出のダム機能となるような具																					

体的な内容をつめていければと思う。

- ・この地域のまちづくりでは、環境問題と緑化問題を合わせて考えていく必要がある。
- ・住宅開発においては、民間の建築業者や不動産屋業者ではなく、県の公社や市の公社等の公共的な主体による開発が望ましいと考える。
- ・バイオ大学において車椅子利用の学生が通学している状況や、文教短大では通学路において暗い場所があるといった問題点の解消など、できるところから進めていければと思う。
- ・坂田駅周辺ではホームセンターやマンションが建設される計画があるなど、米原市においては唯一人口が増えており、駅周辺のまちづくりが積極的に行われている。
- ・県道加田田村線の真上に橋上駅ができたら便利である。
- ・隣接する米原市の農地は今回、計画区域には入っていないが、大きなエリアで考えなくては、駅乗降客数が増加しないと思われる。長浜・米原まんなか夢のまちづくり会議に参加していたが、その時の構想が遅々として進まない原因を考え合わせながら、構想内容を検討していかないと小さなまちの地区計画になってしまうのではないかと。
- ・坂田駅周辺住宅地は白地農地を開発された。田村町の南側は青地なので事業を計画しても取り組めないと聞いている。個人的にはこの付近に公共施設などを誘致することが望ましい。
- ・長浜・米原まんなか夢のまちづくり会議で田村駅周辺のまちづくり計画を十数年検討しているが、土地利用状況は変わっていない。今後、子供や孫の代にどのような長浜市をつくっていくのか。田村町だけにこだわるのではなく、長浜市の定住人口を増やすため、具体的な計画の成功例を示せるように議論できればと思う。
- ・田村町は昔から、農業を重視している集落で市街化区域への編入時も 20～25%の反対者がいた。県道のアンダーから南の田園地域の土地利用計画を考えてみてはどうかという話があったが、半数が農業従事者なので、まずは市街化区域の中で検討していただいて、徐々に発展していければと思う。
- ・市場は田村駅の東に位置しており、京阪神・名古屋方面からは名神高速、また北陸方面からは北陸自動車道と非常に交通利便性が良い。第4次整備計画で現在の長浜市場が整備され、今回、国が第10次整備計画を策定される予定である。滋賀県が10次の整備計画を平成27年度末に策定予定である。国としては中央市場を主体とした整備計画が行われてきたが、10次計画では地方市場の整備計画まで踏み入れて考えている。国を受けて県の整備計画では、市場間統合の計画を打ち出される可能性がある。数年で移転や統合ができないので、長い年月がかかると思う。しかし、市場に入っている卸売会社自体の力がない。以前はヤンマーの南側の平方町において協同組合組織で市場を賄っていたが、街中で住宅も増えてきたため田村町へ平成2年に移転し開業した。今年26年目になるが、今後、卸売市場がどのような方向でいくのか思案しているところである。市場自体がどのような将来展望になっていくのかは未知数である中で、営業している。田村駅周辺でどのように活路を見出していくのか危惧している。
- ・平成3年度にエフアンドエフという計画（案）が考えてられていた。市場前に飲食と花卉販売施設を設置し、一般客を対象に来ていただけるような施設を計画されていた。田村駅の南側の農地や高橋町において、そのような展開を含めてやれるのではないかと。この点を視野に入れて、今後、検討していただければと思う。
- ・市場全体を田村駅の改築の場所として考えるような可能性はないか、お答えできる範囲で教えていただきたい。
→平成2年に市場が移転した時は卸売市場の体力もあつたが今は体力がない。公設となれば、市に100%出資していただく施設になる。全国の流れからみれば公設から民営化または第三セクターという流れになる。新たな市場をどこかに移転した場合は、民営市場もしくは第三セクター市場になると思う。体力がない中、どこから資金を出すかということを考えると、既存の市場で実施したいのが本音である。しかし、国の整備計画の中で市場間統合ということもあるし、県下の市場の中でも衰退していく市場もある。従って、市場間統合を考えていかなければならない。市場間統合となると長浜・彦根の目標になるが、どこに拠点をもっていくのかが問題である。
- ・これから人口減少期に入っていく中、個別でがんばるだけでは課題解決できない。

各方面から違う力を寄せ合わせて、いかに解決していくかが問題である。これまで地域づくりでは、地域を総体として活性化させていくための方策がとれず、農業は農業だけで、産業は産業だけで、教育は教育だけで考えるというような個別の政策ばかりとってきたのが現状である。力が合わさって地域全体をよくしていくという方向になっていなかった。ぜひ、田村町でまちづくり、地域づくりを進めていく上で、ここにあるリソース（資源）をうまく活用しながら、全体としてこの地域を良くしていくと同時に、この地域を構成する団体や農業者を含めて、将来の展望が見えてくるようなまちづくり構想を策定したい。同時にモデルになる条件として、この高いポテンシャルを生かしていくことが課題になる。

7 その他

次回、懇話会は12月開催を予定している。